

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所Sui		公表日		令和7年2月25日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		1階、2階の発達支援室を使い、支援を行っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6			基準は満たしているが、子ども一人一人に合わせた支援を行っていく際には、もう少し職員が欲しいなと感じる。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6			構造化された環境については子どもが目で見分けるようにスペースに区切りをつけている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日清掃を行い清潔にしている。	心地よくといった点では、2階は窓から西日が入り、まぶしく感じる時がある。児童からの不満は今の所ないが、まぶしくないように工夫したいと考えている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		クールダウン室や安静室などが別に設置されている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		個別活動を考える際に、一人一人の計画に沿って活動の立案を行い、職員間で、子どもの状態を共有し、改善点や良い点などを話している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		評価表をとり、内容についても、職員で共有し、話を行った。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎日のミーティングで行っている。		

	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		外部研修の情報の共有、また、内部での研修も行っている。	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		みんなで話して考えた。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		聞き取りを行い計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		子どもに対する共通理解はシステムや日々のミーティングで図っている。支援は、子どもに確認しながら、本人の意思を尊重し行っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		個別支援計画（放課後等デイサービス計画）は、システムで共有している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		フォーマルアセスメントは、保護者に頂いている。日々、子どもの行動観察を行い、気づいた点などを記録に残している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		子どもの状況に合わせ、具体的に作成している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		皆で考えている。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		固定化されないよう、皆で調べて工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎日のミーティングで行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		当日ではなく、翌日の朝行っている。気になる事などは、その日の夕方話している。（←残業になる）	当日の夕方は、送迎や清掃、記録などもあり、退勤時間との兼ね合いで職員間で話を行う時間を取ることが難しい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		毎日、支援記録をとっている。子どもの様子に変化があった際には、その都度共有し、「こうしてみようか」などの検討を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		定期的にモニタリングを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	6		子どもが主体的に参観できる活動では、子どもに進行や積極的に発表をして頂く場を設定している。	子どもが主体となって活動を考えることが出来ていない（個別活動は出来ているが集団活動での立案が行えていない）部分もあるので、今後活動を考える際に取り入れていきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		言葉やツールを使い、その都度確認を行っている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達支援管理責任者が主に参加しているが、職員も一緒に参加することがある。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			学校に関しては、連携を行えている所と、難しい所がある。

関係機関や保護者との連携	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			学校に関しては、連携を行えている所と、難しい所がある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		こども園や児童発達支援事業所との会議に参加している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	4		今年度は該当児童がいない。該当児童がいる際は行っていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	2		未回答2：地域に児童発達支援センターが無い。 （由布市）大分市には行くことがある。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6		地域の他事業所との交流、中・高生のボランティアの受け入れを行った。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6		自立支援協議会のなかの「こども部会」に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		連絡帳や、会った際に話をおこなっている。	定期的に面談を行えると、もっと共通理解が出来るのではないかなと思う。（保護者の就労状況などで、頻繁に面談を行うことが難しいといった状況がある）
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	2	研修の情報提供は行った。	未回答2：今年度は研修など行うことが出来なかった為、次年度は行えるよう計画する。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時や、毎月のお知らせで行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		面談を行っている。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		必ず行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		保護者から希望や相談があった際には、電話や面談などで行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	5	保護者会などは行えていない。保護者評価の中でも希望があったので、次年度は行っていくよう検討する。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		窓口の説明は契約の際に行っているが、気になることがあった際は、LINEやシステム、電話などで常々相談してくださいと伝えている。子どもは、その都度職員に相談出来るよう、環境の工夫などを行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		システム（HUG）を使って行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		地域住民を呼ぶなどはしていないが、地域の中高生のボランティアの受け入れを行った。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		保護者にはシステム（HUG）を使ってマニュアルなどを共有している。	
47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		訓練、研修を行っている。		

非常時等の対応	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		確認はミーティングで行っている。服薬状況を記載する際、個別緊急カードへの記載になる為、別に服薬リストを作成する。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		医師から直接聞いているわけではないが、医師の診断を保護者から共有してもらっている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		避難訓練、救急救命訓練、不審者対応訓練、交通安全講話（児童含め）、緊急時の対応研修などを行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		緊急時の対応など、システムで共有している。また、災害時の避難場所の共有も行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		毎日ヒヤリハットの検討を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		研修を実施している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		説明を行い、同意書を貰っている。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所Sui
○保護者評価実施期間	令和6年4月1日～令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	対象者集：24家庭 回答者数：20家庭
○従業者評価実施期間	令和6年4月1日～令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	対象者数：8名 回答者数：8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月25日

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々のミーティングなどで、子どもの様子、ヒヤリハット、活動などを共有している。	子ども一人一人に状態に合わせた個別活動を行っている。	職員間で情報の共有が図れるよう、システムやクラウドストレージを活用している。
2	子ども一人一人に合わせた個別支援計画を作成し、PDCAサイクルをしっかりと考えて行っている。	保護者との話を共有し、みんなで意見を出しながら計画内容について話し合っている。	日々、職員同士が話を行う時間を設定している。
3	地域の福祉事業所との関わりが密である。	地域の福祉事業所と定期的に集まり意見交換を行っている。	地域の他事業所と合同行事などを行い交流を図っている。（職員も、児童も）

	事業所の弱み（※）だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもが主体的に参画できる活動では、子どもに進行や積極的に発表をして頂く場を設定しているが、子どもが主体となって活動を考えることが出来て	活動予定を立案する際、午前中のミーティングの時間等を利用して考えることが多く、子どもが立案できる時間を設定できていない。	提供時間に、子ども同士で話し合い、立案する時間を設定していく。
2	子どもたち一人一人が自己選択が出来るような支援の工夫をしていくこと。（現在は、ある程度選択制になっている）	活動予定を立案する際、午前中のミーティングの時間等を利用して考えることが多く、活動内容も、子どもが選択できるよう準備している。	場面場面で、子どもの要望をかなえられないことがある。（帰りの会の後に散歩に行きたい等）、子どもが納得できるよう説明を行い、そのうえで、どうしていくかを一緒に考えていく。
3	記録の部分で、日々記録を行い共有しているが、活動の準備や計画の時間なども含め、記録の時間におわれてしまう。	サービス提供時間後、送迎や清掃など、また活動の準備などで十分に時間が取れないことがある。（特に夏休みなどの長期休暇中）	記録できる時間に、こまめに残し都度共有していくように取り組んでいく。